

将来人口推計について

令和元年8月7日(水)
令和元年度第1回日進市総合計画審議会
当日配布資料1 将来人口推計について

1 平成30年度人口推計の考え方

■ コーホート要因法を基に推計を実施

- コーホート要因法は子ども女性比、移動率、生残率の3つの要素で推計する手法

■ 子ども女性比の基準は2014～2018年の5年平均、町字別に算出

- 子ども女性比は地域差が激しいため、町字別に算出 ※住民基本台帳各年10月1日時点の人口データ使用
- 5年間の子ども女性比の変動の傾向から基準となる子ども女性比を設定

■ 移動率は町字別に算出

- 過去の町別人口データの推移を基に、町字別移動率を算出 ※住民基本台帳各年10月1日時点の人口データ使用
- 区画整理が影響する町字や人口が少ない町字については、市平均の移動率を使用
- **2030年までの移動率の仮定値は、町別移動率を適用**
- **2030年以降の移動率の仮定値は、社人研の移動率を適用 ※H30データ使用**
- 移動率(t-1年→t年, n-1歳→n歳) = (t年のn歳実績人口 - t年のn歳封鎖人口) / t-1年のn-1歳実績人口
※将来の移動率を予測することは難しいため、2030年以降は社人研が公表する移動率を採用した。

■ 生残率は国の推計値を使用

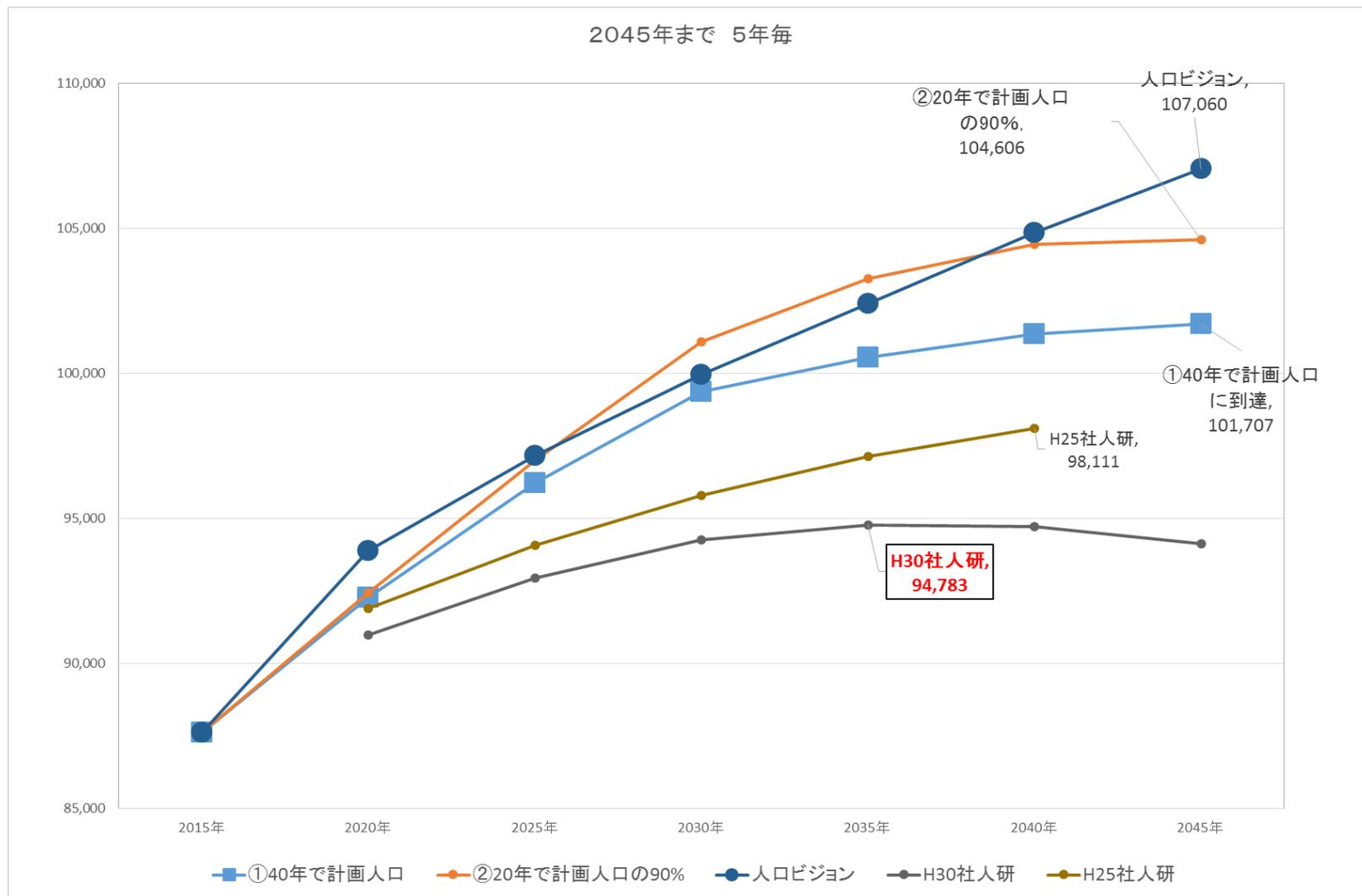
- **生残率は地域別推計が困難なため、社人研の推計値に基づく ※H30データ使用**

■ 算出方法 t年の人口推計の求め方

0歳 t-1年の15～49歳女性人口 × 子ども女性比

n歳人口(1歳以上) = t-1年のn-1歳人口 × (生残率 + 移動率) + 区画整理等の調整分

2 パターン別人口推計(2045年まで 5年毎)



3 推計人口の比較(数値)

■ パターン別人口推計(2045年まで各年)

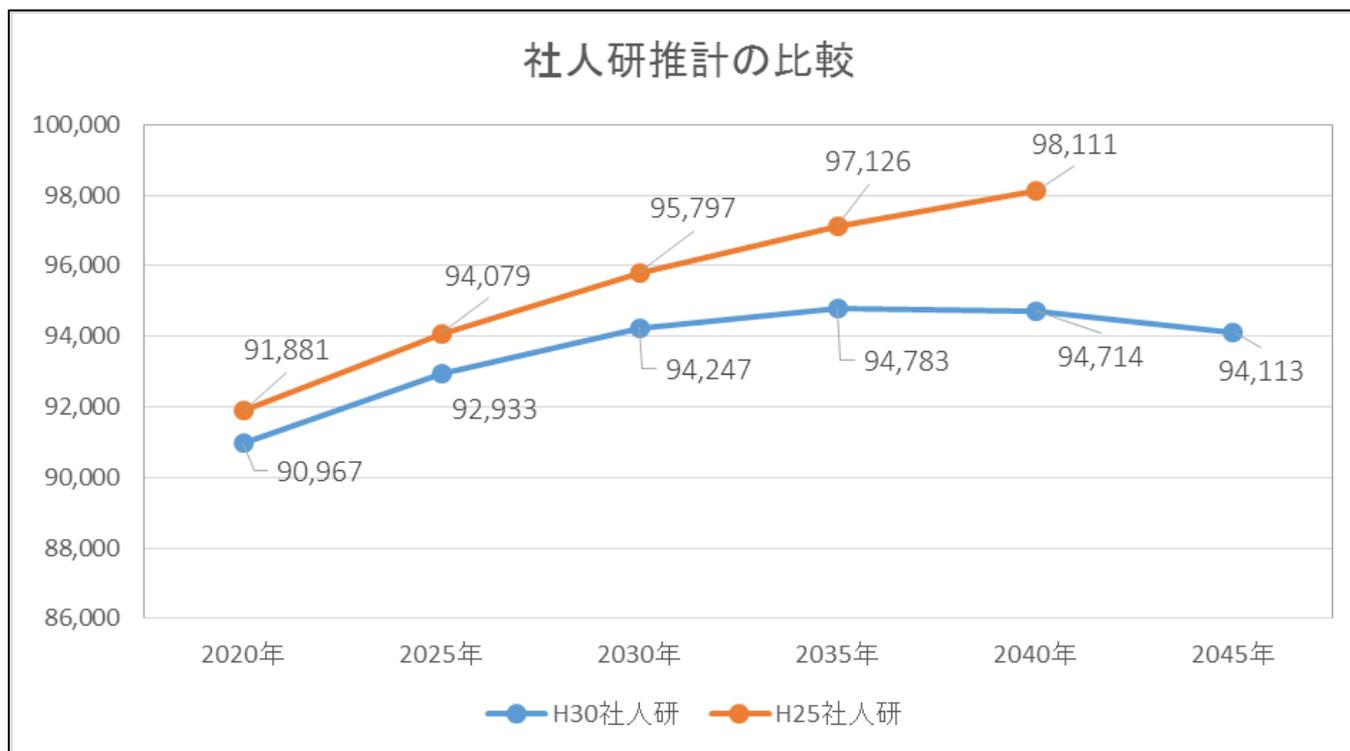
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
①	87,622	92,265	96,221	99,381	100,546	101,352	101,707
②	87,622	92,428	96,996	101,093	103,271	104,463	104,606
人口ビジョン	87,622	93,890	97,178	99,961	102,423	104,867	107,060
H30社人研		90,967	92,933	94,247	94,783	94,714	94,113
H25社人研		91,881	94,079	95,797	97,126	98,111	

■ パターン別人口推計増加率(2045年まで各年)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
①		5.48%	4.94%	4.22%	2.15%	1.15%	0.14%
②		5.29%	4.29%	3.28%	1.17%	0.80%	0.35%
人口ビジョン		7.15%	3.50%	2.86%	2.46%	2.39%	2.09%
H30社人研			2.16%	1.41%	0.57%	-0.07%	-0.63%
H25社人研			2.39%	1.83%	1.39%	1.01%	

<参考>人口ビジョンとの差異についての考察①

- 社人研における平成25年推計では、人口が伸び続ける推計結果だが、平成30年推計では、2035年でピークを迎え、減少傾向に転じる推計結果となっている。
- 人口推計は社人研の移動率及び子ども女性比を使用するため、社人研の傾向に沿った結果となる。そのため、人口ビジョンでは、人口が伸び続ける推計結果が出ていたが、今回の推計では2045年にはほぼ横ばいを迎える推計結果となる。
- 今回の推計では、人口増加を考慮すべき区画整理事業として、香久山西部、日進駅西、日進北部の3事業を追加したことにより、区画整理を考慮した期間で前回より人口増の推計結果となり、またピークも社人研の結果より後ろ倒しの結果となると考えられる。



<参考>人口ビジョンとの差異についての考察②

■生残率の違い

社人研の生残率は、人口ビジョンで使用した平成25年公表のものと、今回の推計で使用した平成30年公表のものとの、男は60歳、女は70歳程度までは大きな変化はない。

<男>60～74歳では前回よりも大きくなる傾向があるが、それ以上の年齢では生残率が小さくなる
<女>70～79歳では前回よりも大きくなる傾向があるが、それ以上の年齢では生残率が小さくなる

このことから、人口ビジョンの推計よりも高齢者(特に85歳以上の人口)が少なくなっていることが言える。

■移動率の違い

今回の推計で使用した平成30年公表の移動率は、人口ビジョンで使用した平成25年公表の移動率と比較して低下している。

平成30年公表の移動率について見ると、特に2035年以降では転入≒転出の状況を示す値となっているため、転入超過の人口増加は抑制される傾向にあると言える。

■子ども女性比について

子ども女性比については、人口ビジョン時と今回とでは大きな変化はなく、15～49歳女人口の増減により変動する。

4 パターン①の年齢別人口推移(数値)

	2018年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
人口総数	90,418	92,265	96,221	99,381	100,546	101,352	101,707
15歳未満	15,051	15,219	15,282	15,247	14,960	14,615	14,156
15-64歳	57,381	58,265	60,542	62,073	61,231	59,416	58,263
65歳以上	17,986	18,781	20,397	22,061	24,355	27,321	29,288

